

2019年(令和元年)度 長野県言語障害児者数 調査結果

調査部

1. 目的

県内における ST が関わっている言語障害児者数の把握

2. 調査期間。

2019年(令和元年)8月1日～8月31日

3. 対象

上記期間中に ST が関わった言語障害児者(摂食嚥下障害を含む)

※1人の言語障害児者に対して1カウント。(摂食嚥下障害は重複可)

4. 回収率:77.5%

(北信:75.0% 東信:68.4% 中信:82.6% 諏訪:90.0% 上伊那:77.7% 飯伊:75.0%)

5. 患者実数総数:表1

表1 患者実数

	成人	小児
北信	1251	595
東信	688	82
中信	1328	454
諏訪	546	589
南信	748	439
	4561	2159

6. 疾患別患者数

6.1 成人分野:実数

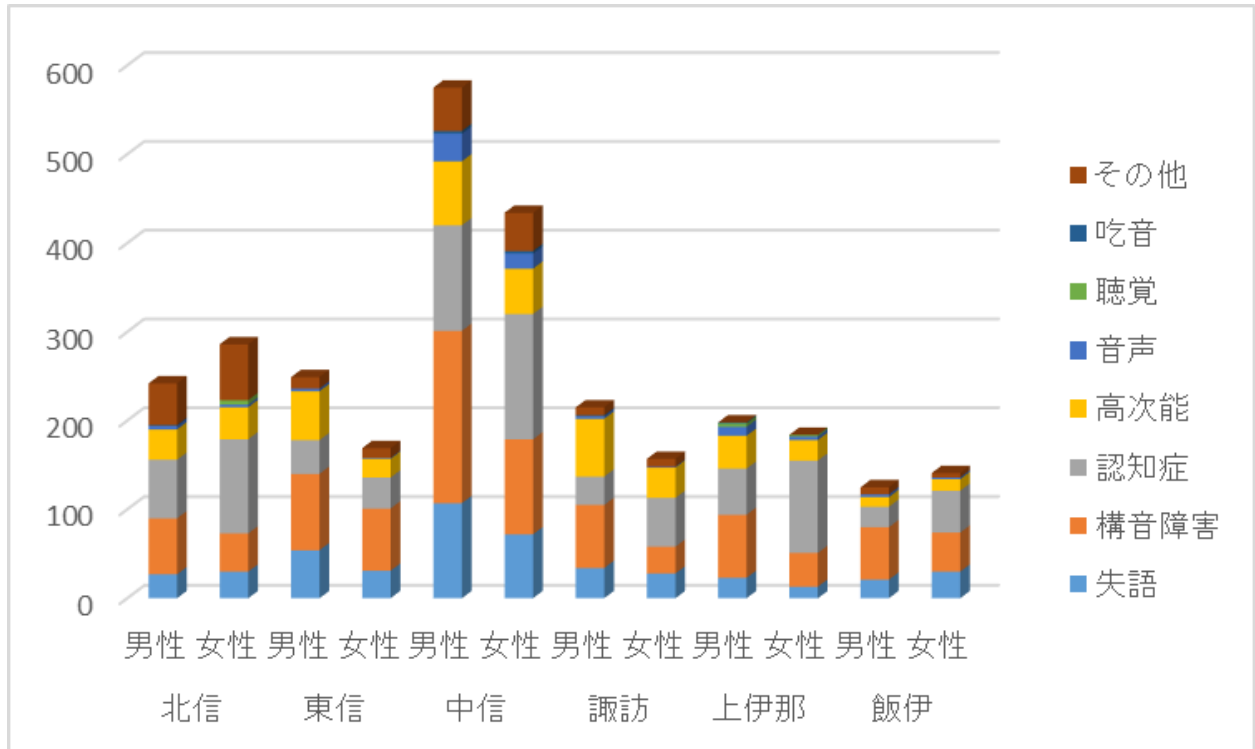


図1 疾患別患者実数:成人

6.1.1. 疾患分布(%)

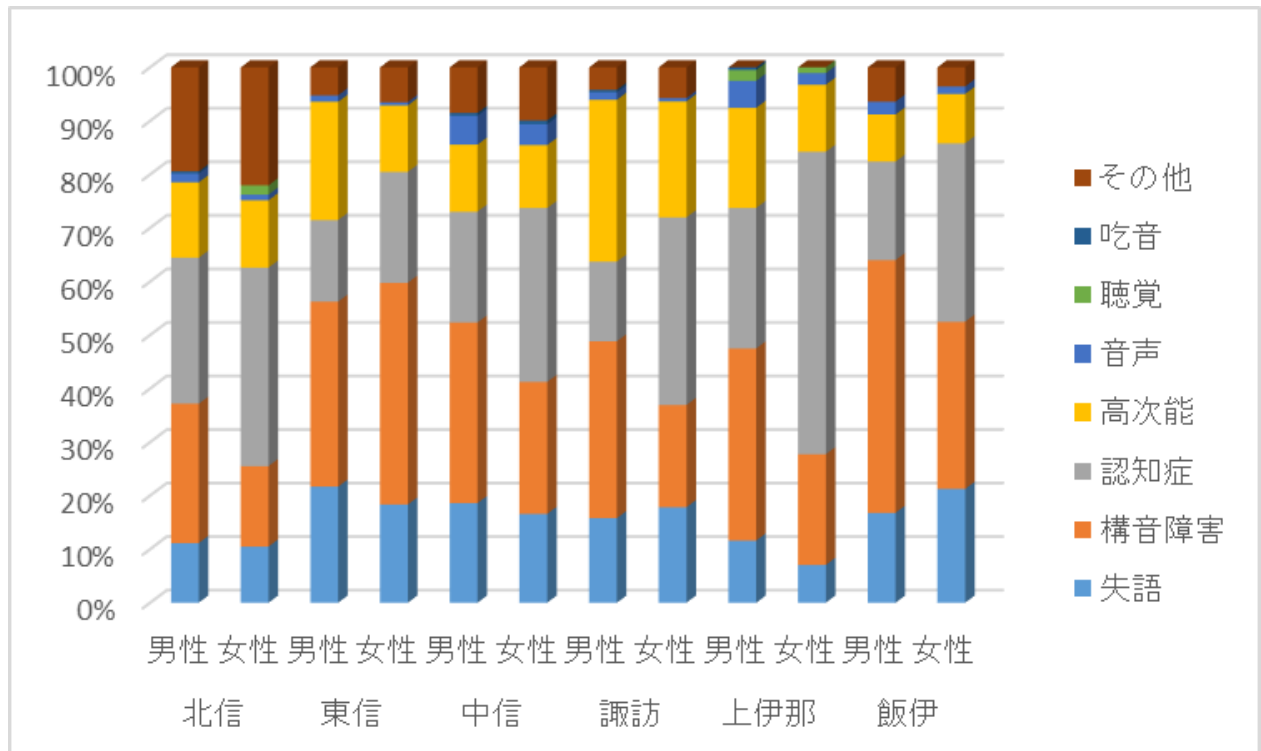


図2 疾患別患者分布

構音障害、高次脳機能障害などの疾患に加え、認知症へのアプローチが増加している。

6.2.1 小児分野:実数

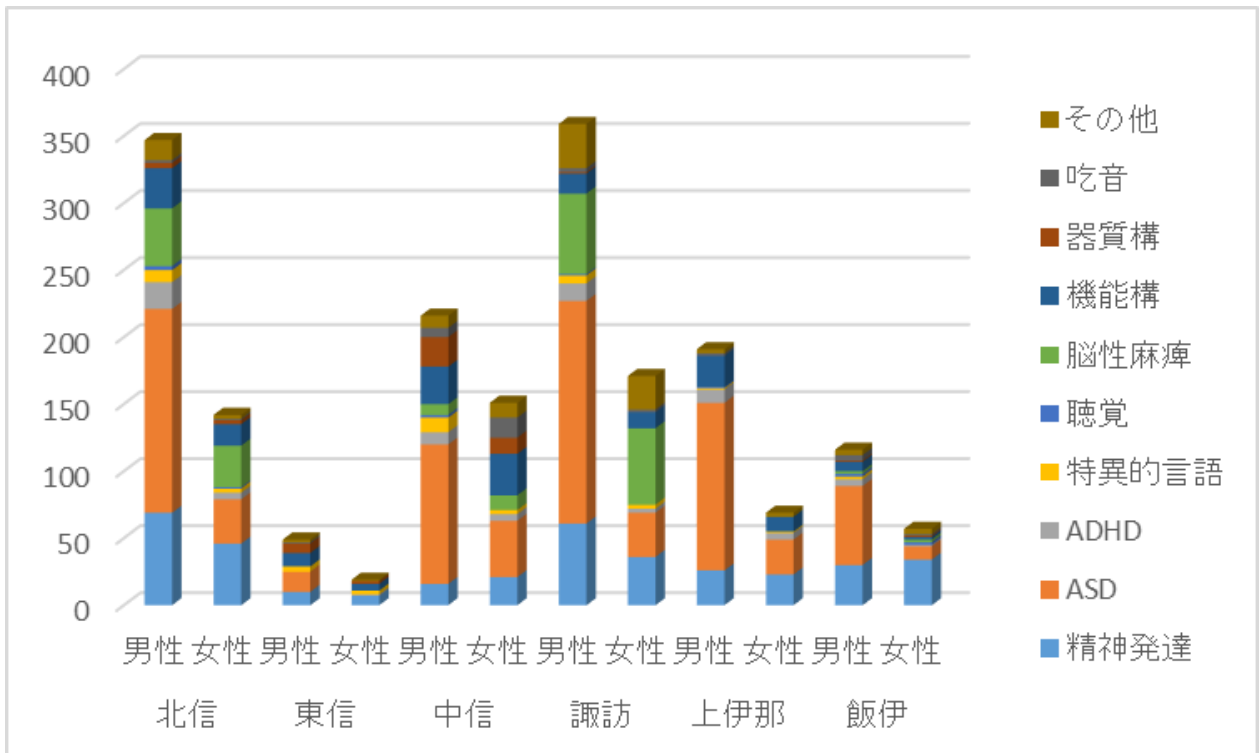


図3 疾患別患者実数:小児

6.2.2 疾患分布(%)

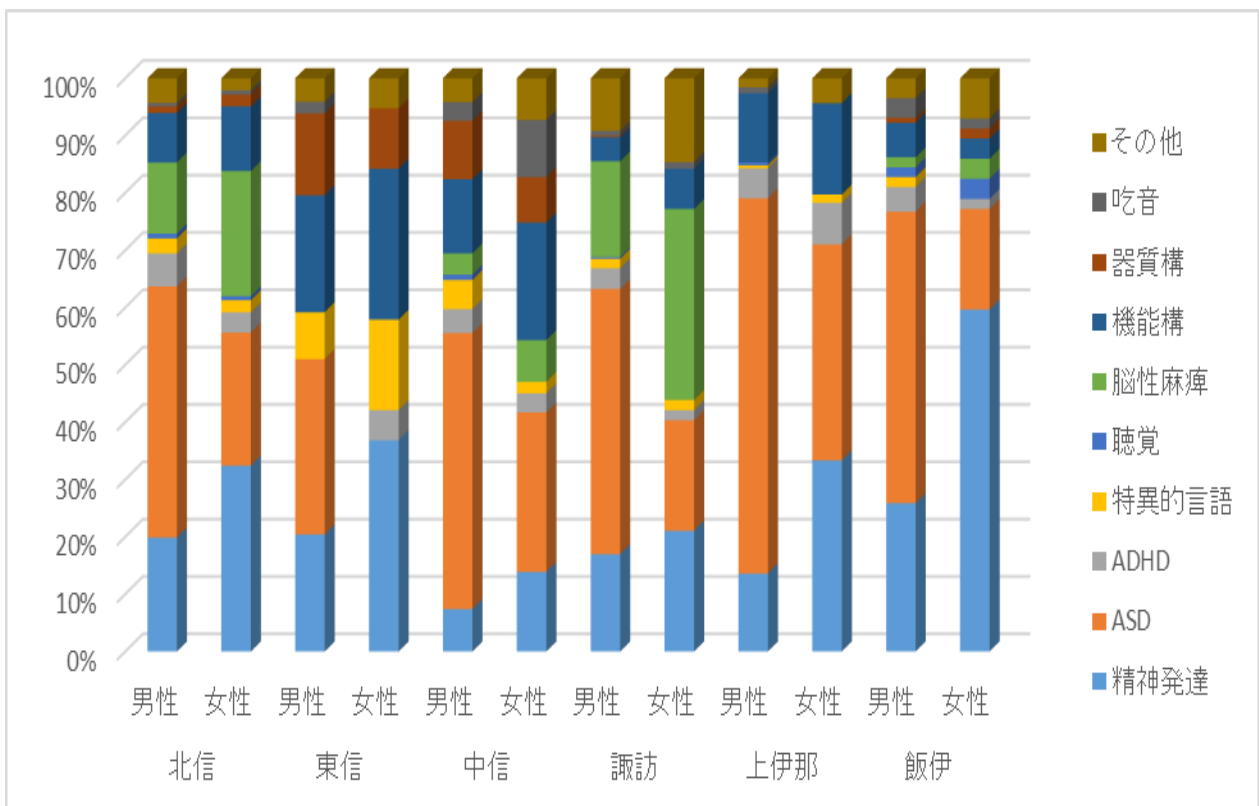


図4 疾患別患者分布:小児

どの地区もASDへの対応は多い。小児の中核病院がある地域は脳性麻痺への対応も多くなっている。

6.3 嚥下障害患者数:疾患別と重複してカウント

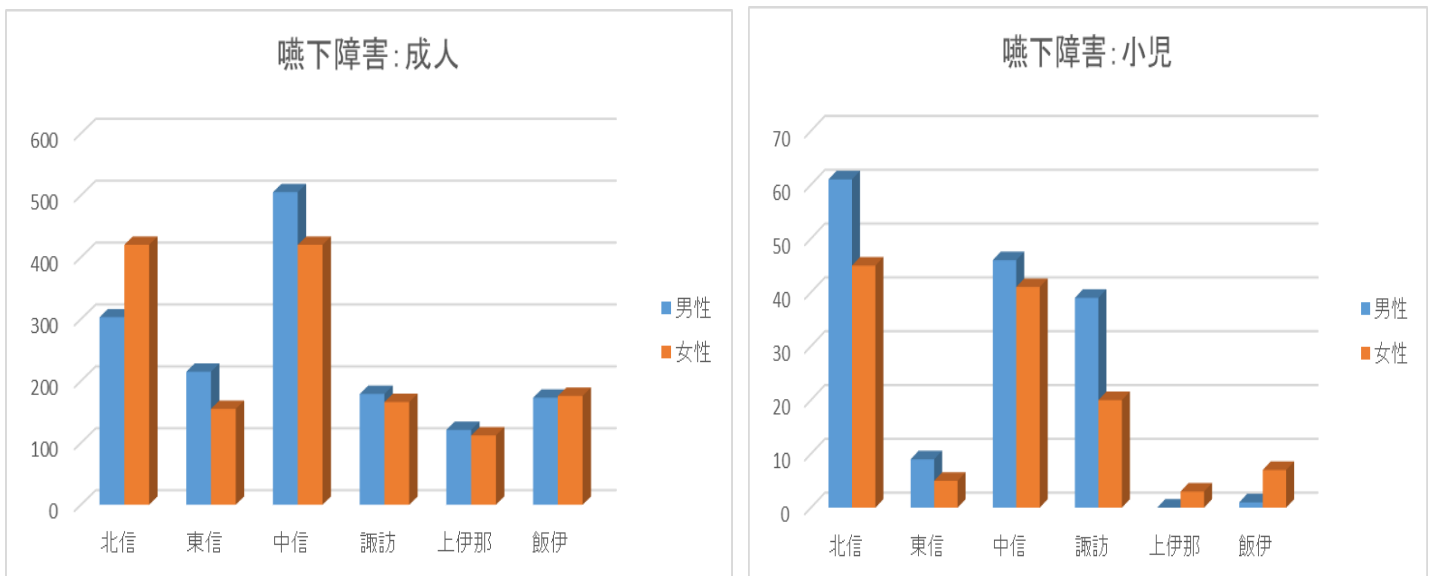


図5 嚥下障害患者数:成人／小児

成人の嚥下障害患者は、どの地域でも一定数の患者を診ていることがわかる。小児の嚥下障害患者に関しては、地域ごとで差があり、小児中核病院に患者が集中している可能性もある。

7. 年代別疾患罹患数

7.1.1 成人

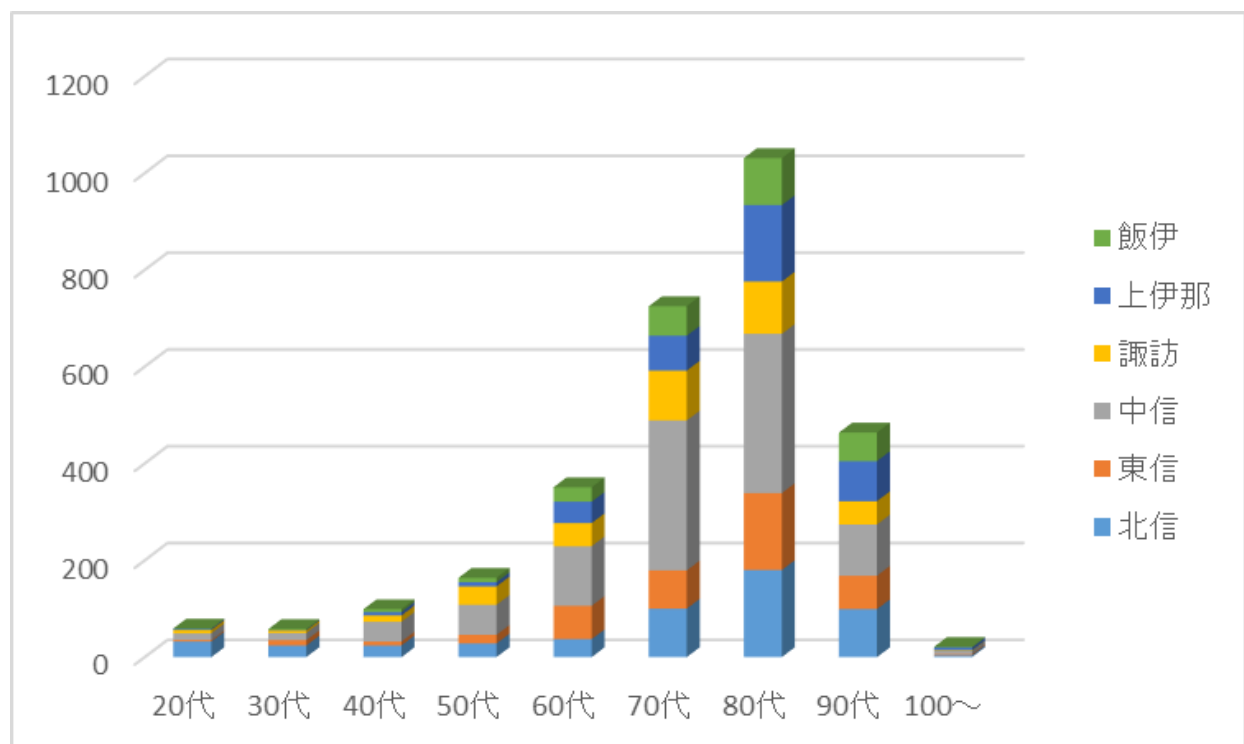


図6 年齢別 疾患罹患数:成人

グラフの形態としては 2017 年調査とほぼ同じ形となっている。徐々に 70 代以上の比率が多くなってきていると思われる。

7.1.2 小児

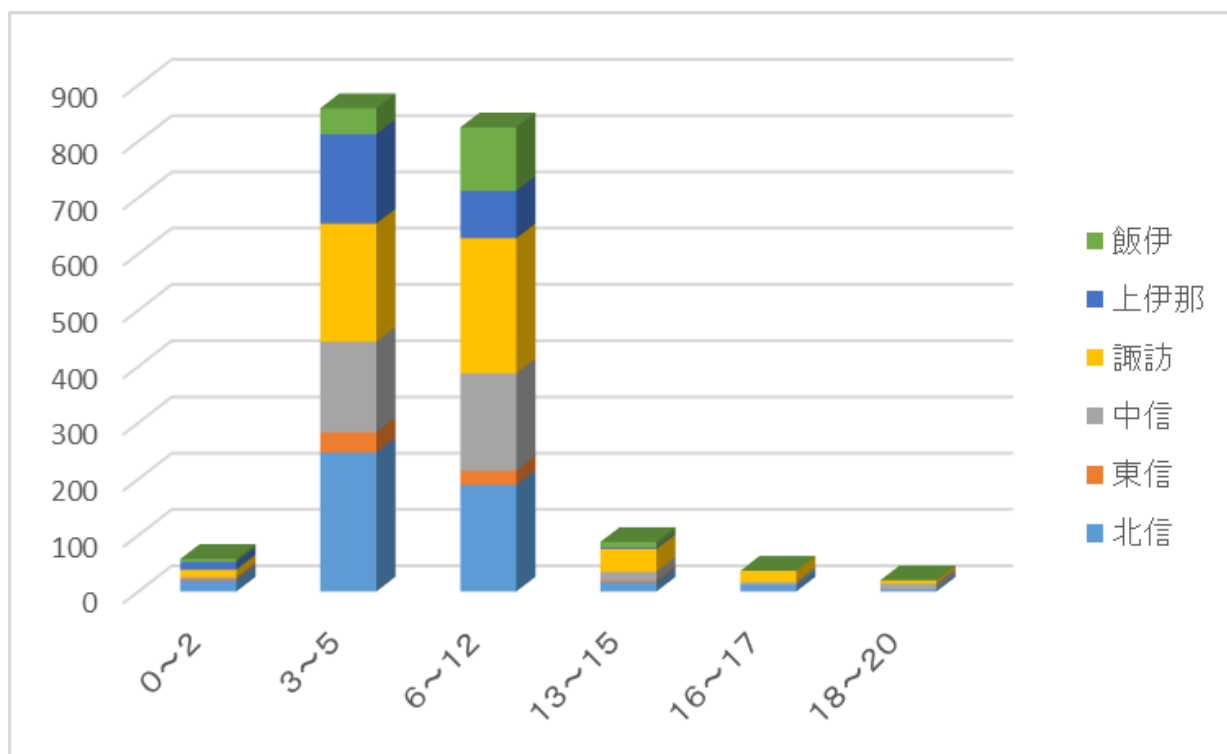


図7 年代別 疾患罹患数:小児

成人同様、2017年調査とほぼ同様のグラフ形態となった。幼児期、学童期への対応が主となっている。

8. 2017年度調査との比較

8.1 回収率

2017年: 84.4%

(北信: 80.9% 東信: 64.5% 中信: 85.0% 諏訪: 88.8% 南信: 93.3%)

2019年: 77.5% ↓

(北信: 75.0% 東信: 68.4% 中信: 82.6% 諏訪: 90.0% 上伊那: 77.7% 飯伊: 75.0%)

8.2 患者実数

表2 患者実数の比較(人)

	2017年			2019年	
	成人	小児		成人	小児
北信	1176	694		1251	595
東信	661	93		688	82
中信	1426	401		1328	454
諏訪	415	497		546	589
南信	958	206		748	439
	4636	1891		4561	2159